

第23回 最先端医療イノベーションセンター 定例セミナー

日時：2019年1月15日（火）18:00～19:00

場所：最先端医療イノベーションセンター棟 1F マルチメディアホール

○セミナー要旨：

脳神経機能再生学では、反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）を簡便化し、最終的には在宅で使用することを目指している。

rTMS 自体は昨年9月、本邦でも、うつ病に対して米国製の機器が承認され、新しい非薬物療法として注目されている。機器をエコで小型化し、取り扱いを簡便にすることで、小規模クリニックでも使用可能である。また在宅治療も可能にすることで、難治性疼痛、リハビリ、パーキンソン病、認知症などへの応用が広がると考えられる。

今回は、難治性疼痛とアルツハイマー型認知症への教室の取り組みを紹介したい。

演題・講師：

○演題：帝人ファーマ（株）の紹介

講師：中村 仁志 帝人ファーマ(株)在宅医療開発推進部・大阪大学大学院医学系研究科 招へい教員

○演題：難治性疼痛治療に対する反復経頭蓋磁気刺激療法

講師：細見 晃一 脳神経機能再生学 特任講師

○演題：アルツハイマー型認知症に対する反復経頭蓋磁気刺激療法の試み

講師：眞野 智生 脳神経機能再生学 特任講師

座長：齋藤 洋一 脳神経機能再生学共同研究講座 特任教授

◇最先端医療イノベーションセンター 研究開発プロジェクトについて

(最先端医療イノベーションセンターHPより抜粋)

・「在宅での経頭蓋磁気刺激治療を可能とする装置・システムの実現」

(A-3プロジェクト)

難治性疼痛に対する反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)は、非侵襲的な治療法です。米国製うつ病用 rTMS 装置が2017年9月に本邦で認可されましたが、疼痛治療に薬事承認を受けた装置はなく、海外の検査用 rTMS を使って臨床研究が行われているのが現状です。本治療による疼痛軽減効果は一時的なもので、在宅で繰り返し治療することが必要です。そこで在宅で rTMS を可能とする装置の開発を目的として、東京大学、大阪大学（基礎工）、関西大学、帝人ファーマ(株)と共同研究し、簡便に使用できる機器ができました。臨床開発を進め、治験を経て薬事申請し、様々な神経疾患における適応拡大を進めます。将来を考えて、次世代型 rTMS の開発に着手する予定です。